

7月の全国における記録的大雨を受けて、8月秋田県にて
「五城目豪雨災害・子ども支援プロジェクト」への支援を行ないました
(2023.7~8)

一般社団法人 災害時緊急支援プラットフォーム（代表理事：吉田 浩一郎 株式会社クラウドワークス代表取締役社長CEO、以下PEAD）は、7月の大雨で被災した秋田県に視察を行ない、秋田県南秋田郡五城目町（ごじょうめまち）での被災者支援のため、任意団体五城目コモンズ（以下五城目コモンズ）、認定特定非営利活動法人カタリバ（本部：東京都杉並区、代表理事今村久美、以下カタリバ）を通じ、地域の方々と連携し、戸別訪問で食事を届ける活動を支援しました。

PEADは、本年7月後半にかけて全国で発生した台風および大雨被害を注視、死傷者、床上浸水、床下浸水、合計住家被害ごとに分けて全国（秋田県、栃木県、茨城県、群馬県、千葉県、静岡県、富山県、石川県、福井県、島根県、愛媛県、山口県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県）の被災状況を把握、7月22日に床上浸水が最も酷い秋田県への視察を実施しました。

秋田市および南秋田郡五城目町を視察、五城目町は千代田区と姉妹提携を結んでおり、都内出身の若手起業家も多く連携がしやすい反面、高齢化率は47.3%と高く、移動手段も併せて被災した方や連絡手段に乏しい高齢者の方々は、支援物資があっても取りに行けない、情報が伝わりにくい、という様な状況にありました。

そこで、町内の経営者が立ち上げた五城目コモンズから紹介を受け、カタリバが遂行する「五城目豪雨災害・子ども支援プロジェクト」への寄付を通じて、地域の方々と連携し軽トラックを借り上げ、8月初旬に現地にて買い物などの移動手段を失った被災者の方々に、毎日お昼ごはんとお夕ごはんを届ける活動への支援を行いました。

配達地域の方が行っており、これは、支援は必要なものの被災した現状を域外の人にあまり見られたくない…、知らない人からの食べ物を受け取りにくい…という特に高齢の被災者の方々に配慮したためです。

これらの活動は、サステナ経営の潮流を捉えるWEBメディア「alterna（2023.7.25）」にて記事として掲載され、Yahooニュースにも取り上げられました。

（<https://www.alterna.co.jp/90226/>）

また、カタリバ代表理事の今村久美氏のお名前で、支援への感謝状を頂戴致しました。



■秋田視察（抜粋）

五城目町における床上浸水の傷跡、家屋の壁に残る泥で色が変わったラインが、浸水時の水位を物語っています。

壁に泥水の跡が残っていることから、ここまで浸水したということが容易に分かる



屋外に運び出された、床上浸水により水に浸かってしまった家財道具など。

■ 被災者の方々に食事を届ける活動の様子



フラッグを張った車両で食事を運ぶ様子を写真家の方に撮影していただきました。PEADで借り上げ提供したトラックを使い、連携する地域のスタッフが現地の被災者の方々に食事を届けています。可能な限り地域に顔のきく方に配達をお願いし、実際に被災して炊き出しを届けたいという意図を共有できる方に依頼しておこないました。



認定特定非営利活動法人カタリバより、支援に対しての感謝状を頂きました。